

科目名	公民Ⅱ Civics Ⅱ			担当教員	山岡健次郎		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220029	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識に囚われず、揺れ動く状況を読み解く視座を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあつては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、教科書をを中心に講義形式で進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を実践的に紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2) 2. 民主政治の基本原則 (6) (1) 民主政治の成立 (2) 基本的人権の確立 3. 日本国憲法の基本原則 (6) (1) 日本国憲法の制定と基本原則 (2) 平和主義			政治という人間活動の特徴を理解する。 A2:1 憲法の根本原則を把握する。 A1:3, A3:2			
	----- [前期中間試験] (1)						
	4. 答案返却・解答 (1) 5. 日本の政治機構 (4) 6. 現代政治の特質と課題 (5) (1) 戦後政治と政党 (2) 世論と政治参加 7. 現代の国際政治 (5) (1) 国際社会の組織化と変容 (2) 地球環境と資源・エネルギー問題			統治の仕組みを説明できる。 A3:1 政党の役割とメディアの果たす機能について学ぶ。 A2:1, A2:2 国際社会の共同のあり様と地球環境保全の取り組みについて学ぶ。 A1:2, A3:3			
	前期末試験						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 現代の資本主義市場経済 (6) (1) 市場経済とは (2) 産業資本主義の成り立ち 10. 現代経済のしくみ (7) (1) 経済主体と経済の循環 (2) 生産のしくみと企業 (3) 金融・財政のしくみと機能			資本蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1 現代経済の動態を構造的に捉えることができる。 A3:1			
	----- [後期中間試験] (1)						
	11. 答案返却・解答 (1) 12. 日本経済の発展と産業構造の変化 (4) 13. 福祉社会と日本経済の課題 (4) 14. 国民経済と国際経済 (5) (1) 貿易と国際収支 (2) グローバル化する世界経済			若者の就業難や少子高齢化といった社会問題に直面する日本社会の現状を歴史的に把握する。 A1:1, A3:2 資本がグローバルに展開する過程を動的に捉える。 A3:1			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験（90%）、提出物（10%）によって評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	公民Ⅰ（2学年）						
教材	教科書：『政治・経済』東京書籍						
備考	特になし						